

平成28年度に県下森林組合が補助金を活用して実施した森林整備事業についてお知らせします。

このページは、「県内森林組合系統の信頼回復に向けた行動宣言」に基づきお知らせするものです。

国土の保全、水源の涵養、地球温暖化の防止、木材をはじめとする林産物の供給等、森林の有する多面的機能を将来にわたって十分に発揮するためには、植栽、保育、間伐等の森林整備を適切に行い、健全な森林を造成する必要があります。

長野県の民有林の約50%を占める人工林では、その7割にあたる約25万haについて間伐作業を実施することが必要ですが、その施業が進んでいません。その原因はさまざま挙げられますが、最も大きい課題は経済的な問題です。

現在の林業は、安価で輸入される外国産の丸太や木製品との比較により価格が決められており、立木を伐採して販売しても、伐採・搬出コスト等を差し引くと森林所有者の手元にほとんど利益は残らないという厳しい状況に置かれています。木材の販売から十分な収入が得られないことは、間伐等の諸費用や伐採後の再造林費等、将来に向かって森林整備をするために必要なコストを捻出することができませんので、採算が見込めないこととなり伐採や再造林の作業は行われなくなります。

そこで、国、県や市町村は一定の条件の下で森林の整備に補助を行っています。補助金額は条件によって異なりますが、搬出間伐では経費の70～80%となっています。しかしながら、これほどの補助金を活用しても、林道から遠い、地形が急峻などの経営条件不利地は施業の採算が厳しく、所有規模の小さい個人有林を中心に森林管理や経営に対する意欲が減退し、管理放棄された森林が増加しています。

下の表は、私たち森林組合が平成28年度に森林経営計画に基づき補助事業を活用し実施した森林整備事業の概要です。森林を守るということは、厳しく地道な作業を長い年月を費やして行なわなければ成し得ませんが、森林組合に従事する役職員は社会的使命と公益的な性格を持つ組織として、より一層の団結の下、林業作業における高い生産性、安全性の確保を目指し、路網、林業機械、ICT⁽¹⁾などを活用してコストの低減化を図りながら、施業面積の拡大に努めています。

長野県のすばらしい森林を未来に継承していくため引き続き森林整備を推進してまいりますので、皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

補助金を活用した森林整備事業の概要(平成28年度)

区分	施業面積	搬出材積	事業費	補助金
搬出間伐	2,077ha	130,841m ³	2,774,135千円	2,128,585千円
上記以外	3,212ha 作業路 126,018m	—————		

- ※ 事業費は、森林の植生、傾斜、地形、地質、林道・作業路の有無等の状態により施業地毎に大きな違いがあります。記載の数値は県下18森林組合の総計です。
- ※ 区分の「上記以外」は、除伐⁽²⁾、枝打⁽³⁾、作業路開設、植栽等です。
- ※ (1) 情報通信技術…林業界においても、森林情報の把握や林業経営の効率化にICT情報を活用する取組が進んでいる。
- ※ (2) 新植した山林がおおむねうっ閉（枝葉が重なり地表を覆った状態）したときに行う作業で、不用木を取り除く作業。
- ※ (3) 林内の光環境の改善、良好な景観の保持及び優良材の生産等を図るために、樹木の枝を落とす作業。

★ 森林づくりの進め方

小規模な森林をまとめて「森林経営計画」を立てます。

森林経営計画とは、「森林所有者」又は「森林の経営の委託を受けた者」が、自ら森林の経営を行う一体的なまとまりのある森林を対象として、森林の施業及び保護について作成する5年を1期とする計画です。

一体的なまとまりを持った森林において、計画に基づく効率的な森林の施業と適切な森林の保護を通じて、森林の持つ多様な機能を十分に発揮させることを目的としています。



事業実施まで

- ① 森林組合からの説明と提案
- ② 長期施業委託契約の締結
- ③ 森林経営計画の作成
- ④ 事業の実施



森林組合の職員が、間伐の方法、路網の整備、木材の販売方法など具体的なご提案を持って、森林所有者の皆様に説明に伺います。

搬出間伐とは

樹木の成長に伴って混み合ってきた林の立木を一部抜き伐りすることにより植栽木の不必要な競争をなくし、すくすく力強く育つようにする作業です。また、林床に太陽光が届くようになり、下草が生育しやすい環境ができ、土壌の流出防止にも繋がることから、土砂災害防止のためにも重要視される保育作業です。

搬出間伐は保育の間伐と同じく植栽木の適正な密度管理のために行う作業ですが、林齢が比較的高い森林について、間伐で伐採したカラマツやスギ、ヒノキを木製品等に有効利用するものです。伐採した間伐材は、利用に適した長さに玉切りし、木材センター等に運び、そこで製材業者等に販売します。

森林をまとめることで路網を整備し、作業の効率を高め、低コスト化を進めます。

危険な伐採作業をより安全に、効率よく進めるためには作業の機械化が必要です。また、木材を木材センター等へ送り出すためには、路網の整備が必要です。森林をまとめ(団地化して)ゆくことで、森林の資源を無駄なく活用することができます。



高性能林業機械による作業(伐採・集材・造材等)



トラックへ積み込み



木材センターで仕分けて販売